

家庭学習と授業の連動～1人1台端末を活用して～

岡山県教育庁高校教育課教育情報化推進室
岡山県教育庁義務教育課



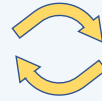
○ より実現しやすくなった家庭学習と授業の連動



GIGAスクール構想によって、全ての児童生徒に1人1台端末が整備され、授業における端末活用は、「慣れる」から「日常的な活用」の段階へと変化し、授業改善に端末が寄与することが増えてきています。

家庭学習においても、1人1台端末を持ち帰り、活用することで、「できること」が増え、家庭学習と授業を連動させやすくなります。

本資料では、「授業との連動」を意識した家庭学習を、1人1台端末等を活用してどのように実現していくかを紹介します。



○ 文部科学省の方針

文部科学省は「平常時から、持ち帰った ICT 端末等を活用した自宅等での学習を行うことは、家庭学習の質を充実させる観点や、臨時休業等の非常時における学びの継続を円滑に行う観点からも有効である。」*と示しています。

*R4.3.3「GIGA スクール構想の下で整備された学校における1人1台端末等の ICT 環境の活用に関する方針について」文部科学省

○ 教員・保護者・児童生徒の意識は…

端末を活用した家庭学習を実施していない学校や、まだ端末を活用した家庭学習に慣れていない学校では、次のような声がよく聞かれています。

教員

- ・端末を活用して、どのような家庭学習に取り組みせればよいのだろうか。
- ・授業と端末を家庭学習をどう連動させればよいのだろうか。



保護者

- ・持って帰って壊したら、修理負担は…。
- ・登下校中の荷物が重くなるのでは…。
- ・長時間使用や、学習に関係ないことに使わないかが心配。
- ・そもそも、どうして端末をもって帰って宿題をする必要があるのか。



児童生徒

- ・端末を持って帰って、何をすればいいのかな。でも、きっとすぐ慣れるよ。
- ・好きな動画サイトをたくさん観てもいいのかな。



まずは、「学校、家庭、児童生徒」間で、端末を持ち帰る意義や課題の具体例、ルール等を共通理解した上で、端末を活用した家庭学習を実践してみましょう。

○ GIGAスクール構想によって進化した授業と家庭学習環境

端末+クラウドを活用することで、授業における効率的なタイムマネジメントも可能となります。



家庭学習と授業の連動 ～ 1人1台端末等を活用したアイデア例～

学び続けることが必要不可欠な時代を見据え、授業改善とともに、多様な学び方を自覚的に習得しながら深い学びに向かっていく「自律的学習者」を育成していくことが求められます。児童生徒自身が学習のイニシアチブを握ることがポイントとなるため、児童生徒が目的や課題に応じて、教科書や様々な教材、1人1台端末等を有効に活用した学び方を自己決定できるように、家庭学習と授業を連動させながら取り組むことが大切です。

- 教え込む授業から主体的に学ぶ授業への転換
- 自律的学習者の育成

義務教育課がこれまでに示したポイントの中からこの2つを基に、4つのアイデアを示します。



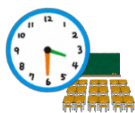
主な関連資料



① 振り返りの充実

現状の主な問題点

学習の成果を自覚させる「振り返り」の活動を確保したいが、他の学習活動に時間がかかり、授業時間内に行うことが難しい。



取組の主なポイント

- 宿題等の家庭学習に取り組んだ後に授業を振り返ることで、更に自己変容を自覚できる場合がある。
- 単元の終末等の総括する場面で、各自の振り返りを端末を活用して共有し、互いの学びや学び方を照らし合わせることで、その後の学習に生かすことができる。



二人とは違って
ぼくは■■■■
と考えたよ。



今日の算数の学習で、友達の考えを聞いて、別の解き方が分かりました。宿題の問題は、その解き方を使ってみました。確実に2つの解き方ができるようになりました。自分の力でできるようになってよかったです。

今日の算数の学習で、自分の考えを伝えると、友達が「すごいね。その解き方を使ってみるね!」と言ってくれました。とてもうれしかったです。友達と学ぶことが、ぼくの得意になってきました。

② 探究的な自主学习

現状の主な問題点

児童生徒が興味・関心を抱いたことに取り組んでほしいが、そこまで広げることができていない。また、教員間で探究のイメージを共有できていない。

取組の主なポイント

- まずは、探究の内容の良し悪しにこだわらず、自身の興味・関心や問いをもとに課題を自己決定できたことを賞賛することで、動機付けにつながる。
- 何日もかけてじっくり課題に取り組むことは「学習の個性化」につながる。
- 端末の持ち帰りが日常的に可能になると、学び方の選択肢が広がる。



インゲンマメの肥料のあり・なしで比較した成長の違いの続きはどうなるのかな？
自分で観察を続けて、スライドを使ってまとめてみよう！

※内容によって、適したまとめ方を選択

送りバントは本当に得点の確率が高くなるのかな？
応援しているプロ野球チームのデータを活用して確率を比較してみよう！

※インターネットを活用した情報の収集
※表計算ソフトの活用に挑戦



「海の命」の作者、立松和平さんは他にも「■■■のいのち」という作品を書いていることが分かった。
学んだことを生かしながら読んで、端末を活用して感想文を書いてみよう！

※図書資料の活用

今日の授業で、「岡山桃太郎空港」など、おもしろい名前の空港を知ったよ。でも、空港がない県もあったよ。なぜだろう？何か共通する理由があるか調べてみよう！

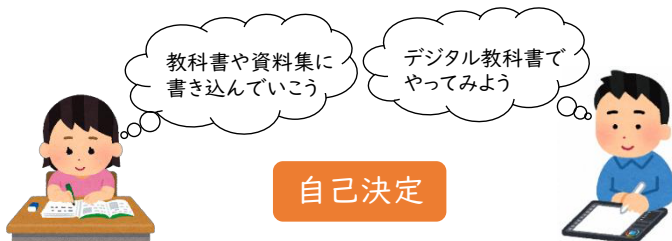
※気付きから問いを立てる



③ 教科書を活用した予習

現状の主な問題点

教え込む授業になりがちで、児童生徒が「主体的に学ぶ」ための具体的な手立てが十分ではない。



自己決定

取組の主なポイント

- 予習に取り組むことで、教師による授業が学習のスタートではなく、受け身の学びから主体的な学びへ転換を図る一手になる。
- 紙の教科書、デジタル教科書の良さを活かした予習に取り組むことにより、自分に適した学び方を自己決定する経験を積むことにつながる。
- 学習者用デジタル教科書には多様な機能があり、家庭で児童生徒が十分に活用する機会を設けることで、主体的に活用することができる。

取組例

- 次の学習内容のページを読む。
- 重要な語句にアンダーラインを引く。
- 知らない言葉の意味を調べて書き込む。
- 算数等の次の学習内容の問題を解いてみる。
- 記述や資料等を読み取って気付いたことを書き込む。
- 難しいことや授業で詳しく学習したいことを見つける。

※学習者用デジタル教科書は、書き込みを自動的に保存するものがほとんどです。

④ 端末の活用ならではの学習

現状

端末を活用し、時間や方法を効率化した授業や家庭学習を模索している。

◎社会に出てからの学びは、eラーニングやWebからの情報収集が中心となる場合も考えられます。こうした学び方に慣れていくことも必要です。

取組の主なポイント

【動画コンテンツの活用例】

(予習)

- 事前の視聴により、次時の学習活動の一端を知り、興味・関心を喚起する。
- 実験器具の使い方等、事前に知っておくことが児童生徒の安全につながる内容もある。

(復習)

- 学習内容の補完や発展的な知識を獲得し、学習を深める。
- 特定の動画に限らず、自分の学習状況に応じて、適切な動画を検索して視聴することも学び方を広げることにつながる。

◎予習、復習ともに、繰り返し視聴することにより、理解を深めることにつながる。



【教育クラウド等の活用例】

(予習)

- 学習の導入部分について、事前に教育クラウド等を活用して学習問題に関わる資料やクラスメイトの考えを共有し、矛盾や差異等に気付く。
- 学習対象について、事前にWebサイトから情報を収集しておく。

(復習)

- アンケートフォーム等を活用した小テストで達成度を確認する。
- AIドリル等に取り組む。
- 興味・関心をもったことなどについて、インターネット検索を行い、新たな情報を収集し、考察する。



家でも端末が使えるようになると、授業の前後がつながって、学習が広がっていくからおもしろいな。

主な参考資料

- 「Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」 内閣府 令和4年6月
- 「未来人材ビジョン(中間とりまとめ案)」 経済産業省 令和4年4月
- 「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)」 文部科学省 令和3年1月
- 「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」 文部科学省 令和3年3月版

○端末を持ち帰る際、家庭と学校との間で共通理解しておくポイント

【環境面】

端末の持ち帰りを安全・安心に行う環境づくりに当たっては、保護者等の協力が得られるよう丁寧な説明を行うことが重要です。

- 端末を持ち帰る意義、課題の具体例を丁寧に伝える。
- 端末の故障や破損時の対応についてフローチャート等で分かりやすく伝える。
- 家庭における端末利用のルールを明確にしておく。
(例…使用時間を守ること、端末・アカウント・パスワードを適切に取り扱うこと、不適切サイトにアクセスしない等)
- トラブルが起きた場合の連絡先等を共有しておく。



保護者向けのパンフレットやFAQ等を作成しておくことも有効です。
(高梁市教育委員会の事例)

参考資料

「学校と保護者等との間で確認・共有しておくことが望ましい主なポイント×StuDX Style」(文部科学省)

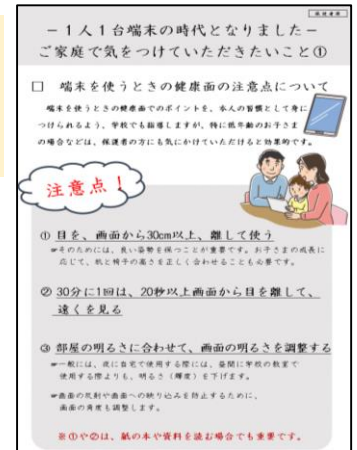
<https://www.mext.go.jp/studxstyle/special/23.html>



【健康面】

端末を家庭学習で活用する際は、心身への影響が生じないように配慮することが重要です。視力や姿勢、睡眠への影響などについて、児童生徒自身が健康に留意しながら活用できるように、日々の授業でもリテラシーを育成するとともに、保護者等への啓発や情報提供をしていきましょう。

- 健康面での配慮事項(30分に1回、20秒以上、画面から目を離し目を休める。就寝1時間前からは、ICT機器の利用を控える等)をリテラシーとして、児童生徒が習得できるようにする。
- 児童生徒が端末を持ち帰る際の荷物の総重量にも配慮する。



参考資料

「端末利用に当たっての児童生徒の健康への配慮等に関する啓発リーフレット」(文部科学省)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00001.html



「児童生徒の携行品に係る配慮について」(文部科学省)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/keikohin/_icsFiles/afieldfile/2018/09/06/1408967_001_1.pdf



○教員が端末を活用した家庭学習を考える際に参考となるWebサイト

おかやまICT活用実践事例集

県内の事例を紹介

【Microsoft】GIGAスクールで、すぐに使える持ち帰りヒント10

Microsoft 365を
活用した家庭学習
の事例を紹介

おかやままなびとサーチ

地域の調べ学習に最適

【Apple公式資料】教師のみなさんに役立つヒント30

iPadのアプリや
機能を活用した
ヒントを紹介

StuDX Style

全国の事例を紹介

これからの家庭学習 Google for Educationを活用した事例ブック

Google for Educationを活用した事例ブック
教師向け

G Workspaces
アプリを活用した
家庭学習の事例を
紹介